

平成 18 年度学術ポータル担当者研修 レポート

澤口由好 (受講番号：3 名古屋大学法学部・法学研究科図書掛)
眞野博和 (受講番号：4 名古屋大学附属図書館情報システム課雑誌掛)
山川幸恵 (受講番号：5 名古屋大学農学部・生命農学研究科図書掛)

(1) 発表資料の状況設定

名古屋大学リポジトリ (NAGOYA Repository) の現在の状況 (リポジトリ：公開済、説明会：学部ごとに教授会などで実施済、チラシ：継続配布中、登録依頼：週に数件ある) で、さらに登録を増やすために理系の研究室を訪問して登録を呼びかける。

(2) 発表内容抄録と研修当日の講師からの助言、および研修発表との改訂部分

a) 発表内容抄録

名古屋大学では、「NAGOYA Repository」という名称で学術機関リポジトリを既に公開している。学術機関リポジトリとは“研究成果の保管庫かつ発信拠点”であり、リポジトリに登録することによって、研究者には「①可視性の向上」「②研究成果の保存」というメリットがある。その登録方法は、「論文等の登録対象 (雑誌掲載論文・学位論文・科研費報告書など特に制限しない；ただし、査読済雑誌掲載論文の場合は原則として著者最終稿) を添付して図書館へメールを送るだけ」という簡単なものとした。よくある質問の例に、①共著者の許諾 (→すべての著者からの許諾が必要)、②特許に関わる論文の登録 (→登録しなくてもよい)、③電子ジャーナルとの区別 (→電子ジャーナルは有料契約が必要) がある。もし手元に登録できる論文があれば、ぜひ図書館へ連絡してほしい。

b) 研修当日の講師からの助言

「訪問先の研究室のことを事前に調べておき、その研究室や分野に応じたアプローチをしていくとよいのではないか」という助言があった。

c) 研修発表との改訂部分

①NAGOYA Repository についてアクセス解析をした結果の数値を最新のものと変更

→「可視性が向上する」ということ具体例を示す説明を、「今年 7 月の NAGOYA Repository には 7 万ページビューがあったが、このうち 1 万ページビューは検索エンジン経由のアクセスであった」から、最新 (10 月) のデータ「NAGOYA Repository の訪問数のおよそ 7 割が、Google や Yahoo! といった検索エンジン経由のアクセスだった」という説明に変えた。

②リポジトリへ登録するメリットに挙げた「教員情報検索と連携するという構想がある」の削除

→現在、構築を検討中であり、具体化していないため。

③理系研究室の訪問を想定した FAQ（よくある質問）を追加

→「共著者がいる場合はどうすればいいか?」「特許に関わる論文は登録したくないがどうすればいいか?」「電子ジャーナルがあるのに NAGOYA Repository にも登録するメリットは?」という 3 点についての説明を加えた。(※作成した FAQ の詳細は、参考資料を参照のこと)

(3) リハプレゼンの概要(日時、場所、発表者、発表対象、参加人数)

日 時： 平成 18 年 10 月 26 日 (金) 14 : 00~14 : 30

場 所： 名古屋大学附属図書館 多目的室

発 表 者： 澤口

発表対象： 名古屋大学内図書系職員

参加人数： 21 人

(4) リハプレゼンへの反響

「NAGOYA Repository では、協力的な先生方のリストアップを進めている。このため、コアになりそうな先生方の獲得にも繋がるような視点があればよいと思う」というコメントがあった。

(5) その他(備考、今後の予定と希望)

このリハサールプレゼンテーションは、名古屋大学内図書系職員を対象とした「NAGOYA Repository に関する報告会」の一部として行った（「平成 18 年度学術ポータル担当者研修報告」として、研修の概要報告とあわせて実施）。この報告会は、学内の図書系職員に NAGOYA Repository の現状を知ってもらうことを目的として開催されたものである。

今後の予定としては、学内で NAGOYA Repository に協力的な教員グループを作る計画がある。